

文字もじ MOJI の世界

29. 琉球語のために作られた書体「しま書体」

小川晋史*

「しま書体」(しま明朝 縦書き用, しま明朝 横書き用, しまゴシック 縦書き用, しまゴシック 横書き用) というのは最近作られた游書体のカスタム書体である。Windows と MacOS に標準搭載されている游書体(游明朝・游ゴシック)がベースで, かのスティーブ・ジョブズが認めたと言われるヒラギノ書体などと同じ書体設計士がデザインしている。そのために文字デザインの信頼性が高いのはもちろんだが, それ以上にこの書体の独自性というのは作られた理由にある。

それについて説明したいのだが, この書体を発表して以降, 書体のネーミングとその表記(ひらがなであること)についての質問を受けることが複数回あり, その質問に答えると書体そのものの説明になるというわけで, このコラムではネーミングの質問にお答えする形式で書体の説明をしたい。なお, しま書体開発で「2018 年度日本音声学会 学術研究奨励賞」を頂いた。ありがたいことである。

消滅危機言語

実はしま書体は日本語を主な対象言語として作られたわけではなく, 日本国内の消滅危機言語たる琉球(諸)語を志向して作られたという経緯があり, それが書体のネーミングに反映されている。琉球語になじみがない方のために説明しておく, 日本国内の地域言語で, 地理的には, 奄美大島から与那国島の間で伝統的に使われてきた。日本語とは歴史的に親戚

関係にあるのだが, 現在では日本語と琉球語は通じない。そして, 話者が減ってきており, 消滅の危機に瀕している。

そういう言語である。2009 年に UNESCO がアイヌ語などと同様に消滅危機に瀕する言語として, 琉球語の下位区分である奄美語・国頭語・沖縄語・宮古語・八重山語・与那国語を認定して以来, さらなる注目を浴びている。その琉球語のために, しま書体は作られたのである。

しま書体の特徴

- 対象言語: 琉球(諸)語
- 対応している表記法: 「琉球諸語統一的表記法」
- 目的: 消滅危機言語である琉球(諸)語の記録・保存・継承に資する

まず, 「し・ま」という音の並びの書体名になったのは, 対象となる言語が琉球語であることと関係している。前述のように, 琉球語は奄美以南で伝統的に使われてきたことばであって, 日本語と親戚関係にあるために似た単語が使われることもあるが, 日本語と琉球語の双方で変化が進んでいるために, 現代の日本語とは通じ合えない。そして, 琉球語の使われる広い地域で“sima”のような音(地域によって少しずつ異なる)で発音される単語は「島」ではなく「故郷」や「村」とい

が い く て え む

図1 標準日本語では使わない仮名文字(ひらがなの例)

うような意味を表している。

琉球語のこゝろに「故郷の言葉を忘れたら、故郷を忘れる」というのがあるように、ことばはそれを使用する人間のアイデンティティーそのものでもある。この考えを大事にしたいという気持ちで“sima”という音を書体名に使うことにしたのである。対象である琉球語には日本語で使われないような音がたくさんあるので、しま書体には日本語で使う文字（漢字と仮名）に加えて、琉球語用の独自の仮名文字が搭載されている（図1）。

次に、表記の問題として漢字の「島書体」ではないのかということだが、これは先ほどの、しま書体の“sima”が島（あるいは英語だと island で表される意味）ではないことが理由の1つである。それに加えて、この書体が「琉球諸語統一表記法」に対応して作られた書体ということが理由にある。

「琉球諸語統一表記法」は奄美から与那国までのすべての琉球（諸）語を同じ統一規格の中で書けるように考案された表記法で、『琉球のことばの書き方—琉球諸語統一表記法』（くろしお出版、2015年）の中で提案された（図2）。詳細な表記法の説明はここでは省略するが、この表記法では漢字を使うことを推奨していないので、書体名にも仮名文字を用いている。

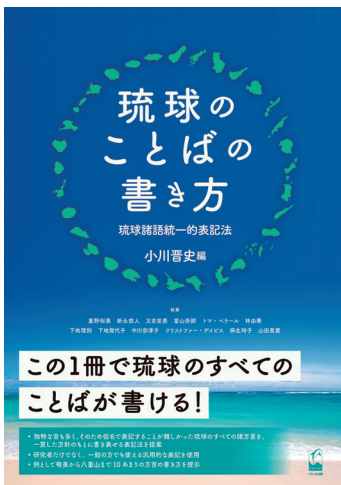


図2 琉球のことばの書き方—琉球諸語統一表記法

未来志向の書体

カタカナで「シマ書体」にしなかった理由だが、昔は日本語の教科書もカタカナがメインであったように、これまでは琉球語も（著者ごとに工夫した表記法で）カタカナで書かれることが多かった。いくつかの琉球語の方言辞典など見ると、カタカナで書かれている場合がかなりある（図3）。その上で「シマ書体」にしなかったのは、本書体が未来志向をしているという点に理由がある。

消滅の危機にある琉球語の（潜在的）継承者たる若者は、琉球語ができる人であってもいまや日本語表記法に慣れ親しんでいるという実状がある。若者にとってカタカナというのは、もはや外来語を書くときに使うものという印象がぬぐえない。地域の伝統的なことばである琉球語を外来語のように思ってしまうという願いを込めて、ひらがなで「しま書体」というネーミングにしたのである。

ピーリ-カジ [pi:rikæʝi] (名)

冷たい風。ピーカジ(一)、ピングイカジともいう。

ピーリ-カニナルン [pi:rikæninorun] (動)

すっかり冷え切っていること。【例】ウヌ シューヤ ピーリカニナリドゥラ(このおつゆはすっかり冷え切っているよ)

図3 『竹富方言辞典』(南山舎、2011年)より

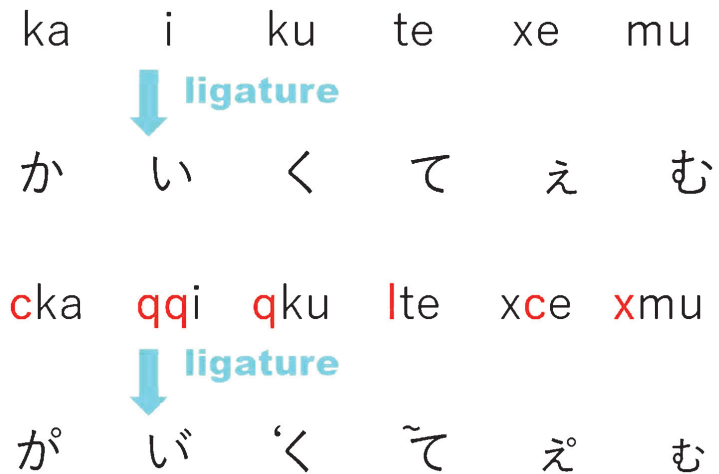


図4 しま書体とアルファベット入力とリガチャーによる表示（※日本語ローマ字入力の要領で赤字のアルファベットを付けることで補助記号付きの仮名が表示される）

以上が「しま書体」とそのネーミングにまつわる説明であるが、書体の特徴について補足しておきたい。まず、しま書体の入力にはIME (Input Method Editor) をつかわず、半角アルファベットからのリガチャーによって行われる (図4)。これは学会発表時に「数十年前の手法ではないか」と言われたりもしたが、将来的に Unicode 登録まで目指すために、現時点であえて特殊な (≒日本語では使わないような) 文字と記号に code を振らないという決断をしたためである。

それから、横書き用と縦書き用のフォントが分かれているという点も特徴的であるのだが、これは一般によく使われるアプリである Windows Word で縦書きに対応させるための措置としてこうなっている。試行版を作った段階で“横書きフォント”では縦書きの表示がうまく実現できないことがわかったので、横書き用と縦書き用を分けるという決断をしたのである。リガチャーを用いるため、リガチャーが働かないアプリでは使うことが難しいという側面も残しつつ世に出ているわけだが、大言語である英語や日本語向けのフォントがあふれる現在の環境のなかで、少数言語たる琉球語向けフォントを作るといことの大変さの



* OGAWA, Shinji
熊本県立大学文学部 准教授
〒862-8502 熊本市東区月出3-1-100
ogwshinji@pu-kumamoto.ac.jp

裏返しだと理解して頂ければ幸いである。今後 Unicode 登録を目指すなどして使用環境を改善していきたい。

なお、しまフォントは琉球語向けに作られたとはいえ、フォントセット単体で考えれば仮名文字基調でありながら日本語では使わない記号と仮名文字が組み合わさったようなグリフが搭載されていると見ることができる。游書体とのデザイン相性の良さからも多様な表現に使える可能性があると思うので、琉球語以外の場面でもぜひ使ってもらいたいと思う。それによってしま書体、ひいては消滅危機言語たる琉球語に多くの人の意識が向けられることに繋がるのではないかと期待している。

少数言語、危機言語を知ろう

最後に、しま書体の最大の意義と言うのは、日本国内の言語間の格差を埋めることである。標準日本語は学校教育に使用される言語であって、表記法はもちろん、電子的に読み書きするためのフォントなどが準備されている。日本語の諸方言は標準日本語の表記法を微調整すれば書くことができる。

一方で、琉球語にはそれを母語とする人たちが奄美から与那国までの広い範囲にいるにもかかわらず、汎用的な表記法などが整備されてこなかった。このような言語間格差を埋めるための道具の1つがしま書体である。しま書体と琉球語をきっかけに、是非とも世界中に存在する少数言語、消滅危機言語にも思いを馳せて頂きたい。 ■

印刷技術 基本ポイント 文字・書体 編

「印刷雑誌」編集部[編]
四六判・64ページ 1,000円+税

和文を中心に書籍や雑誌をはじめとした印刷媒体、さらにデジタル機器の表示まで、文字の基本を解説。

印刷技術 基本ポイント 組版・ページネーション 編

「印刷雑誌」編集部[編]
四六判・64ページ 1,200円+税

文字の並べ方や行を組むルール、ページのデザインなどについて、基本から応用までを解説。



●好評発売中●

印刷技術基本ポイント シリーズ

プリプレス編
枚葉オフセット印刷編
UVオフセット印刷編
オフセットインキ編
カラーコミュニケーション編
製本編
POD編 四六判・並製
64~80ページ

印刷学会出版部

<http://www.japanprinter.co.jp/>